

2009/01/28

福島市立大久保小学校6年生「通学路改善の取り組み」経過

平成20年10月上旬 福島市「子ども議会」の質問が県北建設事務所に届く

- (質問者) 福島市立大久保小学校6年 佐藤晃峻(ひろたか)君
- (質問事項) 大久保地区の自動車の通行について
- (質問内容) 別紙1

平成20年11月11日 福島市「子ども議会」開催

当該質問は子ども議会での質問、答弁は行われず、答弁書として配布された。
県北建設事務所の回答は別紙2のとおり

平成20年11月21日 第1回「ちーむ Oh!kubo」

- (時間) 10:30～11:15 (3校時目)
- (場所) 大久保小学校6年生の教室
- (参加者) 6年生(20名) 県北建設事務所職員
- (内容) 「みんなで考える安全な通学路」
 - ・福島市子ども議会の質問、回答の説明
 - ・現地を歩きながら撮影したビデオで見て、現地の状況を体感
 - ・小学校周辺や国道114号などのいろいろな道路の写真を見て、道路についての理解を深める
 - ・「危険を感じたか、その理由は？ 解決策はあるか」を6年生に考えてもらう
 - ・6年生(20名)の意見は別紙3のとおり
 - ・「福島市こども市議会」感想用紙 別紙4

平成20年12月16日 第2回「ちーむ Oh!kubo」

- (時間) 10:30～11:15 (3校時目)
- (場所) 大久保小学校6年生の教室
- (参加者) 6年生(20名) 県北建設事務所職員
- (内容) 「みんなで考える安全な通学路」
 - ・「危険を感じたか、その理由は？ 解決策はあるか」前回の振り返りと確認
 - ・人、車、道路の関係を考える
 - ・調査箇所に名前を付ける
 - ・解決策を考える

平成21年 1月28日 第3回「ちーむ Oh!kubo」開催

- (時間) 10:30～12:05 (3、4校時目)
(現地での作業は10:45～11:15の予定)
- (場所) 大久保小学校6年生の教室及び県道川俣安達線の現地
- (参加者) 参加者 6年生(20名) 県北建設事務所職員
- (内容) 「みんなで考える安全な通学路」
 - ・みんなで考えた「自分たちでできること」の実践(体験)
 - ①路側にたまった土砂の撤去
 - ②車を運転する人に対する注意喚起看板の設置位置決定

取り組みの目的

- これまで、小学生から直接道路に関する意見を聞くことがなかったこと。
- 今回の質問は、片側歩道という道路の形についての利用者からの素朴な疑問であり、道路管理者の立場で改めて考えるきっかけとなったこと。
- 県が管理する国県道の現状を考慮すると、片側歩道の道路を再度整備し、両側歩道とすることはすぐには対応できないことから、利用方法を含め現状の改善を検討する必要があること。
- これらを踏まえ、
現状改善として路側の土砂撤去により歩行空間を広げることなどは、工事として施工してしまえば簡単ではあるが、利用する小学生に道路の現状、歩く時の注意点、歩く人と車を運転する人との関係などをいっしょに考えてもらい、自分たちでできることを体験してもらう機会を通じて、道路に対する理解を深めてもらうとともに、通学時の安全確保を高めたいという願いを込めて実施した。

別紙 1 (福島市子ども議会への質問)

子ども議会質問内容書	質問者(子ども議員)	
	学校名	大久保小学校
	氏名	
質問事項	大久保地区の自動車の通行について	
具体的内容		
<p>ぼく達の住んでいる大久保地区は、飯野町の東側にあります。学校の前には(県道)安達・川俣線の道路があり、登下校の時には大型トラックや普通自動車が川俣や松川方面に向かってたくさん通ります。ぼくが登校班の班長になって登下校をするようになって何度か怖い思いをしたことがあります。</p> <p>ぼく達の班は、安達・川俣線の道路を横断歩道を渡って学校に登下校しますが、家から横断歩道までに行く道路がきちんと整備されていなく、いつも道路の左側をみんな1列になって歩いて行きます。スピードを出す車も多く、歩いている時は、恐くて振り返ることもできません。</p> <p>そのため、先生方とお家の方達が話し合っ、大人の人付き添いで横断歩道の手前を横断して安全に渡るようにしました。</p> <p>しかし、ぼくの気持ちは、複雑です。1つは、横断歩道のないところを渡ること、もう一つは、大人の人がない時は、左側を歩かなければならないからです。</p> <p>堂々と道路を横断できるように、歩道の整備か横断歩道の設置をぜひお願いしたいと思います。</p>		

別紙 2（県北建設事務所からの回答）

平成 20 年 10 月 14 日

福島県県北建設事務所

主要地方道川俣安達線（飯野町大久保地区）における歩道設置について

福島市飯野町大久保地区を通る、主要地方道川俣安達線は、福島県が管理する道路です。

さて、みなさんが通学している道路には、歩道が有ったり、無かったり、両側にあったり、片側にしかなかったりしていると思います。

また、福島市内の多くの小学生が、歩道のない道路を通らなければ、通学できない状況だと思っています。

県では、歩道が設置されていない道路について、歩行者の数や自動車の交通量などを参考に順番に歩道を整備していくこととしています。

しかし、質問のあった川俣安達線については、通学しているみなさんが、危険を感じていることから、片側にしか歩道がないことの問題点を小学生のみなさんと現地でいっしょに確かめながら、安全に通行できる方法を相談し、問題点を解決していきたいと考えています。

別紙4 (「福島市子ども議会感想用紙」)

(別紙様式)

平成20年度「福島市子ども議会」感想用紙

子ども議員用

学校番号	50	学校名	大久保小学木交
		氏名	佐藤 湜峻
<p> ぼくは今年度の子ども議会に参加する際、大久保地区の安全な登下木交について、質問しました。質問が議題には^{ここ}は^これ^がな^かったので、ぼくの質問はどうなるのかなあと思いました。そして、ぼくの書いた質問のことを教える人がくると先生が言っていたのでよかったです。そして当日、東北建設の方が来てくれました。そして、クラスのみんなと、ぼくたちの通学路が本当にこわいか、また、それはどうしてか、どうすれば、こわくなくなるかなどを考えられました。ぼくたちの通学路が、危険ではなく、安全な登下木交ができるようになればいいなど、ぼくは思っています。 </p>			